
きみとわたしのはなし

まお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

きみとわたしのはなし

【Nコード】

N3348P

【作者名】

まお

【あらすじ】

初めての彼氏、

私はずうーっとこの幸せが続けばいいと思っていました。

さいしょのわたし

・・・塾に通うことになった中三の夏。

初めての出会いは友達携帯電話のプリだったって本当？

本当に最初から「かわいい」って思ってくれてたの？

本当に私のこと好きでいてくれてたの？

私には分からないことだけどね、やっぱり聞きたかった。

君に抱かれてる時のことを思い出すと涙が出てくるよ。

「幸せて、これなんだ」って思ってたのに、

ずうっと一緒にいたいって思ってたのに、

ごめんね、

本当にごめんなさい。

私から別れを告げるなんて

思っ
ても
な
か
っ
た
よ。

であつたのはきみ

塾に通い出して4日目。

他校の友達がたくさんできて、

同じ目標を持った子がたくさんいて、

「がんばろう」

この気持ちが大きくなってきた時にその出会いはきた。

「まあ、この人たちどう思う？」

友達が休憩時間に見せてくれた携帯に、数人の男の子が写った。

みんな笑つてて、みんなかつこよく見えた。

「かつこいいと思う」

勉強で頭いっぱい、ちょっと適当に答えちゃったんだ。

けど、それが良かったのかな、

今でも、よく分からないやww

「私ね、この人たちにまおの事紹介したんだあ」

「え?! まぢすかああ?!」

「ねえまお この人見て、どう思う？」

・・・

友達が指さした先に笑っている男の子の一人が。

「か、かつこいいね・・・」

ぼろりと言ってしまった・・・

その一言が聞こえてしまった。

「本当?! この人、まおのこと気に入ったっぽいんだよね」

・・・それは、喜ぶべきでしょうか、

困るべきでしょうか・・・ 何故か私、とても迷った記憶があるの。

「・・・ありがとう」

私は、一応言ってみた。

「うん!! ねえ、メールしてみたら？」

あ、その手があるのかあ

してみようか、やめておくべきか、

悩んだ末、

「うちのアド、その人に教えていいよ。」

私の口は、しっかりとそう言っていました。

だって、かつこいいし、気に入られるのって、やっぱり嬉しかったしねww

友達は速攻で私のアドレスをその人に送った。

そして、一言。

「付き合えばいいのに」

約5分前に見た人と付き合うとか、本当にあり得ない。

けど、そ・ゆ・考えて古いのかも。

今では、メル友が彼氏、彼女ってゆう人もいるし・・・

な・んて考えてたら休憩時間が終わり、私は携帯の電源を切った。

次の授業は大得意の社会だったのに、全く集中してなかったと思う。

だって、ずうつとその人のこと考えてたから。

だって、名前も知らなかったし、性格も、部活は何したのかも知らなかったから

ずうつと妄想してたと思う。

授業が終わって、また休憩時間になった。

いつもは予習しているこの時間が携帯いじりの時間になった。

携帯画面に、知らないアドレスからのメールが一通。

「はじめまして、。？の浅井 巧です。よろしく」

本当にメールがきた。

はじめてのメールで

「・・・メール、来てる。

・・・浅井君、てゆーんだ・・・」

やばい、私　頭おかしかつたのかな？！

名前だけで部活も趣味も浮かんできちゃうなんて！！

「あ、メール来てたんだ。よかったね」

そういつて、空気を読んだのか、気まぐれか、

私の友人であり、浅井君も紹介してくれた恩人（？）

優花ちゃんはトイレへと行ってしまった。

・・・ありがと・・・

私は、心の中で感謝し、返信を打った。

「こちらこそ初めまして。　。中の白井まおです。」

絵文字なんて、つける余裕なくって、

超短文を送った。

「知ってます。 よろしく、優花さんが紹介してくれたんだ。

おもしろい子だよって、今塾だろ？ また後でメールするよ」

すぐ→のメールが返ってきた。・・・感無量(?!)

う、うれしすww

けど、紹介の仕方おかしくない？

おもしろい子・・・うゝん、ま いつか。

塾だから後でだなんて!! 優しい!

私は、きつと・・・絶対自分はモテ期だと思った。

彼氏なんて、今まで一人もいなくって、告られたこともなくって、

自分から告るなんて、もってのほかで・

塾がうざく感じた。 早く終われ、いや 終わってください。

一刻も早く、浅井君にメールがしたいと切に感じてた。

まだ付き合ってもないくせに、声も聞いたこと無いくせに、それでも、

「この人とメールしていると何か落ち着く。

この人とメールしてないと何か落ち着かない。」

初めて、そう思えた。

携帯の中にはたくさんの男子のアドレスがある。

けど、浅井君だけは何か特別・・・

そんな気がしてた。

私は、自他が認める妄想族で、ケイタイ小説の読み過ぎ注意報がでるような人だけ

これは本物だと、

思った。

そして、頭がピンク一色になりきった頃、

塾は終わりました。

私は速攻

「今、塾終わったよ」

送っていました。

いつもはお母さんに連絡するのに、

今日は、、、今日からは一番最初に、浅井君に連絡することになり
そうです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3348p/>

きみとわたしのはなし

2010年12月14日22時16分発行